

協力会だより 第39号

発行 山梨県立考古博物館協力会 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 電話(055)266-3881

発行日 平成27年3月31日発行 考古博物館協力会ブログ <http://www.y-kyouryokukai.jp/>

平成25・26年度の協力会の活動を振り返って



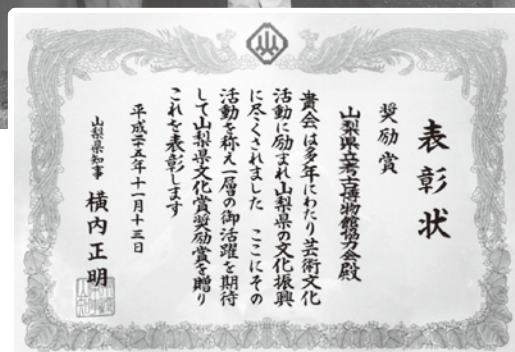
平成26年度協力会総会にて（風土記の丘研修センター）

考古博物館協力会の主な活動

- 4月 協会会委嘱式／総会／ボランティアガイド証交付
- 5月 風土記の丘こどもまつり
- 7月～8月 夏休みイベント体験補助／ショップ当番
- 9月～11月 特別展準備（常設展撤収、復旧作業）／特別展当番（監視、もぎり、ショップ当番など）

勉強会・研修

- 春季、夏季企画展、特別展勉強会
- ボランティアガイド研修
- 勾玉作り研修
- 第1・2回日帰り研修



協力会だより第39号は平成25・26年度の協力会行事を総まとめした内容となりました。平成25年には協力会創立30周年を迎え、山梨県文化表彰奨励賞を受賞する記念すべき年となりました。30年の長きにわたる考古博物館協力会への皆さまのご協力に感謝申し上げます。

協力会と20年

会長 椎名 慎太郎

今年度（平成26年度）をもって、20年に及び県立考古博物館協会会長の職を退きました。就任依頼があった当時、現職で教育・研究のほか管理職としても多忙であったため、最初から実務には携わらないことを条件にお引き受けした職ではありませんでしたが、博物館を裏で支える皆さんのボランティア活動を側面から見守るといふ、それなりに興味深い仕事でした。皆さんの熱心な姿勢に教えられ、感銘を受けることが少なからずありました。思えば、私が東京から山梨に異動してきた年に設立された博物館も、30年余りの歳月を経過して、すっかり曾根丘陵の麓に溶け込む存在となりました。別の言い方をすれば、かなり老朽化したということでもあります。かなりの予算が伴うことですから、刷新に関して協力会が出来ることは多くないと思いますが、「なんとかしなければ」という県民世論を広げることにはできると思います。皆様のご活躍を期待しております。長い間お世話になりました。

平成25・26年度考古博物館協力員委嘱式 考古博物館協力会総会

平成25年度は4月20日に考古博物館協力員委嘱式・協力会総会を開催しました。新たに18名の方が協力員となり、また3名の方がボランティアガイドに加わりました。10年間協力会活動に尽力された方7名の表彰も行いました。総会後には記念講演会が開催され、「江戸の考古学」をテーマに東京大学埋蔵文化財調査室の堀内秀樹氏に講演していただきました。山梨県内の遺跡についてのお話もあり、甲府城下町遺跡や鵜沢河岸跡から出土した陶磁器について詳しく紹介する場面もありました。当時の生活の一端を考えることが出来る機会となりました。



写真左：総会の様子
写真右：講演会の様子

平成26年度は4月19日に協力会総会を開催しました。新たに2名の方がボランティアガイドに加わりました。総会の後には協力会創立30周年を記念した祝賀会を開催し、事務局手づくり縄文風のデザートや軽食をお出ししました。皆さんお味はいかがでしたでしょうか？

毎年4月に行われる協力会総会は、協力員の皆さんが一同に会する貴重な場です。久しぶりに会う方も多いのか皆さん声を掛け合い、話が弾んでいた様子でした。たまにはこのような場を設けるのもいいものですね。これからも博物館の活動にご協力をよろしくお願いいたします。



写真左右：祝賀会の様子。軽食はどんぐりパンケーキ、古代米あられ、山ぶどうジュース、ニワトコサイダーなどが出ました。

写真左下：祝賀会にて。曜日班を越えて楽しそうにお話されていました。
写真右下：総会会場には毎年、副会長の原田さんに素敵なお花を生けていただいています。

平成25・26年度考古博物館協力会役員

会長	椎名 慎太郎
副会長	原田 みゆき
副会長	深澤 俊 雄
理事	雨宮 千代子
理事	遠藤 栄 子
理事	広瀬 はるみ
監事	齋藤 一 幸
監事	山崎 義 雄

勉強会を行っています！

企画展や特別展開催期間中は学芸員が講師となって勉強会を行います。展示を見ながら見どころを詳しく解説していきます。質問や意見が飛びかうこともあり、発掘時の貴重なエピソードや遺跡、遺物に関する雑学などさまざまな話を交えた解説です。平成26年度は祭祀に使われた「音具」に焦点をあてた特別展を開催し、山梨県内では出土していない銅鐸や鈴鏡を身につけた巫女埴輪など、全国から様々な考古資料がやってきました。展示を計画した学芸員の解説にも熱が入ります。県内出土の遺物と見比べてみていかがでしたでしょうか。



写真右上：平成25年度夏季企画展の様子。講師は野代学芸員。

写真左下：平成26年度夏季企画展の様子。講師は村石学芸課長。

写真右下：平成26年度特別展の様子。復元琴を囲んで解説を聞きます。

平成25・26年度開催の企画展、特別展

春季企画展「武田と城と城下町」展

夏季企画展「日本一の富士山」展

冬季企画展「古代都留群ものがたり～富士北麓の出土品～」展

特別展「食いしん坊の縄文人～いざとなったら縄文食 日本の食とところの源流～」

春季企画展「縄文人の装いー県内出土の装身具ー」

夏期企画展「まじないの世界ー儀式・呪文・霊的世界ー」

特別展「掘り起こされた音の形ーまつりと音具の世界ー」



ボランティアガイドがご案内します！

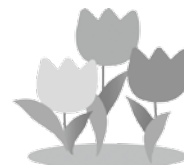


考古博物館では協力員によるボランティアガイドが常設展の解説をしています。来館者のなかにはガイドの解説を聴くためにわざわざ訪ねて来る方もいらっしゃいます。大人から子どもまで多くの方にわかりやすく、親切なため好評なのでしょう。また、ボランティアガイドの研修会も開催しています。研修には現在ガイドをされている方、ガイドを目指す方が参加します。知識を持ち寄り、互いに教えあいながら研修をされている姿が大変頼もしいです。忙しい中何度も考古博に足を運び、来館者に解説して下さる熱意に博物館の職員も感謝しています。平成25年度には3名、平成26年度は2名の方がガイドとなり、現在16名の方がボランティアガイドとして活躍していただいています。



写真左：ガイドの方々が中心になった研修の様子。

写真右：学芸員から常設展解説の要点を聞いています。



♪体験・イベントのお手伝い♪

平成25・26年も協力員の皆様には博物館行事のお手伝いや、体験学習指導の補助などを行いました。写真は左から夏季のイベントで小中学生に勾玉作りを教える様子、毎年こどもの日に開催する「こどもまつり」にて土器で炊いた古代米を配膳する様子、くすみや古代米を使った古代のもちつきにてもちを取り分ける様子です。他にも職員と力を合わせ火起こし体験や狩猟体験など様々な体験学習、博物館イベントで活躍しています。



* 平成25年度 研修 *

平成25年度 第1回 明治大学博物館・東京都埋蔵文化財センター

日程 平成25年11月27日(水) 参加者 24名

明治大学博物館は展示室が刑事・商品・考古部門の3つの部門に分かれています。諸外国の処刑具や我が国の古代から近代までの刑罰を定めた法令、捕者具に驚いていた様子です。商品部門では美しい工芸品とその作成の過程を知ることが出来ました。考古部門には夏島貝塚からの出土品や、縄文時代晩期の優美な文様が施された「亀ヶ岡式土器」が展示されており、特に興味深く見学をしました。

東京都埋蔵文化財センターでは多摩ニュータウンから出土した遺物が展示され、展示品に触れることが出来るようになっていました。縄文服や土器パズルなどもあり大人から子どもまで楽しめる展示室に一同関心して見学しました。収蔵庫での遺物の管理、木製品の保存処理をする様子などバックヤードも見せていただき、遺跡庭園では竪穴住居のくん蒸の様子も見学しました。

杉野 美幸さん

明治大学博物館ではさすが教育施設だけに「見てわかる」展示で興味深かったです。図録まで網羅されたクイズラリーは展示を一見しただけでは見つけられず、しっかりと解説を読んで全問正解、ポストカードをゲットしましたが、イベント等なくても楽しめるちょっとしたしかけがとても楽しかったです。

埋文では復元住居のくん蒸についてもお話をうかがいました。体験、見て学べ、楽しいことこそが、文化、考古学への啓発につながる大切な視点があると痛感いたしました。できることからがんばっていききたいと思います。

内藤 敏夫さん

いつもながら企画、しおり作成、引率等ありがとうございます。

明治大学博物館は考古部門、刑事部門、商品部門と特殊な博物館でした。遺物の展示が単調で荘厳さを感じられなかったのが残念です。

東京都埋蔵文化財センターは東京都埋蔵文化財センターとして運営されていると聞きました。中央線に乗ると南方の多摩丘陵地帯が造成され、タウン化されていく様子はよく覚えています。そこに964カ所の遺跡群が発見されていたことは今回の見学で初めて知りました。研修に参加して知識も広まり、会員相互の親睦が図れたこと、次回の研修も楽しみにしています。



バス車内は和やかでした。



明治大学博物館にて、恐ろしい刑具を見学中

髙木 りえさん

今年4月より協力員として活動を始めてから初の研修旅行。ボランティア活動への参加理由中かなりの比重を占める県外研修旅行。1回目と2回目の旅程が違う！迷わず即日参加を決めました。明治大学博物館 考古部門では発掘者の写真解説パネルにより当時の発掘の様子が偲ばれました。刑事部門では普段見ることのない江戸時代の捕者具「十手、捕り縄、刺叉、」など。拷問具、処刑具、諸外国コーナーのギロチン、鉄の処女は圧巻！

やや慄きながら、東京都埋蔵文化財センターへ、体験型の館内めぐり。実際に土器に触り（ガラスケースにガラスが無い！）打製石斧で土をこね、縄文模様をエンピツでうつし取りました。また、収蔵庫内の見学や4500年前の縄文の村の周囲に生えていた樹木や野草を栽培した森の中に復元した竪穴住居内では、火を焚いたりという楽しい体験ができました。

次回もぜひ参加しようと思いつつ帰途につきました。

太田 孝男さん

協力員1年目最初の研修旅行であり、様子が分からず多少不安な面もありましたが、古代好きな皆さんと有意義な1日を過ごす事ができました。

明治大学博物館ではまず建物の立派さにびっくり。私が大学の頃の明治は古い建物のイメージだけだったので昔日の感がありました。中では刑事、商品、考古学と三分類の展示でしたが、特に印象的なのは刑事部門の江戸の捕者具や欧州の処刑具に驚かされました。また、特別展の見学での各県の国分寺の規模の多さと木簡の出土に興味を持ちました。午後からの多摩ニュータウン内の東京都埋蔵文化財センターの見学では改めて縄文人のおしゃれな一面で文化の高さを再認識しました。学芸員の方も親切かつ詳細な説明で理解を深めました。また保管庫内の見学もあり、貴重な資料保存の一端を知り大変勉強になりました。次の研修でもぜひ参加できればと思っています。



東京都埋蔵文化財センターを見学する様子

匿名希望さん

明治大学博物館は考古、商品、刑事部門に分かれていたが、考古部門では展示量は多くないものの重文の展示もありコンパクトに良くまとめられていると感じた。また、海外の資料も展示されていて興味深く見学した。刑事部門では今まで本や話してしか知らない拷問や処刑具が展示されていて江戸時代や海外の罪と罰の世界を垣間見る事ができ、大変な驚きと共に見学した。

東京都埋蔵文化財センターは児童生徒の見学が多いせいか、体験型の博物館となっていることが大変興味深かった。具体的には展示物（土器）に触れられること、縄文文様の複写や作製、土器の立体パズルや庭園の住居跡への入場などで私も体験した。展示物は土器類や遺物小物類の展示も多く、私もしっかりと写真を撮らせていただいた。職員の方には、館内バックヤード、発掘された遺物の加工処理方法及び、庭園遺跡など大変詳しく解説していただき感謝申し上げます。

飯田 学さん

11月27日の研修旅行は好天に恵まれ爽やかな1日でした。明治大学博物館は立派な建物の中にあり入場無料がうれしい。常設展前に江戸時代の庶民の生活必需品、大名屋敷の配置図などが展示されていた。一瞬、銭形平次の世界が頭に浮かんだが、数百年後の今日ビルが建ち並ぶ大都会に変わった。常設展示室には考古、刑事、商品の3部門に分かれ、見学者が観賞しやすいように配慮されていた。刑事部門には日本西洋の拷問、処刑道具などが展示されていて、実際使用されたと思うと背筋が寒くなった。

東京都埋蔵文化財センターは広大な面積で展示ホール、縄文の森があり散歩コースとしても楽しめると思った。印象深い展示物が多かったが特に印象に残ったのが江戸時代の木製の水道管、玉川上水池より距離50km高低差124mを利用して江戸の町に水を供給した。縄文の森の3住居が復元されていたが長い年月のわりには生活環境が大きく変わったとは思われなかった。

※今回の研修は縄文ありきの研修ではなくなんでもあり（展示物が）の研修で目先が変わって良かった。



写真右上：東京都埋蔵文化財センターでは収蔵庫も見学させていただきました。
写真右下：東京都埋蔵文化財センター展示室内には土器に触られるコーナーもありました。

平成25年度 第2回 長野市立博物館・松本市立考古博物館

日 程 平成26年3月9日(日) 参加者 24名

第2回の研修地となる長野市立博物館は川中島古戦場となった地にあります。ボランティア活動が活発で、考古博物館に見学に来ていただいたこともあります。今回の研修では長野市博のボランティアの方との交流をはかり、活動の内容を知りたいと考え研修地としました。また、武田信玄の戦った地ということもあり山梨県とも繋がりのある資料を持っています。館内の見学と「たわら編み」体験をさせていただき、ボランティアの方との交流会を設けていただきました。館内のガイドや体験学習の補助など、アイデアを出し合い自主的に活動する様子を聞き、意見交換や沢山の質問が飛び交う会となりました。より協力会活動に力が入るような刺激をもらいました。

松本市立考古博物館は豊富な縄文時代の資料があり東日本最古級の3世紀の古墳、弘法山古墳からの出土品があります。美しい文様の土版や耳飾り、縄文土器が目を引き、考古博物館にある資料との共通点や違いを見比べながら見学しました。勾玉づくりの様子や収蔵庫も見せていただき、貴重な時間を過ごすことが出来ました。

西崎 誠さん

長野市立博物館を見学して 常設展示室は太古から善光寺平の自然風土、歴史、民俗等をテーマに豊富な資料が公開されていました。特に興味を持ったことは、「市民と共に作る博物館」を目指してボランティア活動を推進していて、現在約60名のボランティアが子ども向けの対応と天文分野の活動を推進して活動していることでした。

内容として、小学校や幼稚園の団体に見学天文解説などを行っており、養成講座や研修なども随時行っているようです。最後に、12年前に研修センターで受けたアンギン織りを体験させていただきましたが、すっかり忘れてしまったやり方をボランティアの方に教えていただいて思い出し18×13cmの織物を作ったことは楽しい経験になりました。

田中 英子さん

長野市立博物館はもう少しゆっくり見学したかったです。体験学習もいねいに教えていただき楽しかったです。今のようになるまで3年くらいかかったそうです。ボランティアの人たちが色々話し合っ作り上げていく楽しみがあるように思いました。

長野県の小学生が大勢来ていてボランティアの人たちと交流があるのがとても良いと思いました。

松本市立考古博物館は直接さわることができる物もあり楽しかったです。

また、ゆっくり見学に行きたいと思いました。事務局の皆様、幹事の皆様ありがとうございました。



長野市立博物館ではボランティアの方にたわら編みを教えていただきました。

田中 秀志さん

長野県立博物館は長野盆地の形成期から現代までの自然と人間との関わりあいが入り口より時系列で上手くわかりやすく展示されていると感じました。

展示に興味を持ったのは弥生時代のベンガラ(紅色)土器で色合いがとても美しかったです。また、現代社会では私の幼少時代の記憶と重なる生活様式や道具類を大変懐かしく見学しました。ここではもっとゆっくり見学したかった。

ボランティアの方々との交流ではこちらの質問に丁寧に回答いただき、具体的な苦労話など大変参考になりました。松本市立考古博物館では、縄文時代の展示も多く、特に土偶と土製耳飾りに興味を持ち見学しました。耳飾りはその大きさと形状、色が様々あり、どのように使用されたのかロマンを感じました。

最後になりましたが、今回の研修に際し計画されました幹事及び事務局の皆様へ感謝申し上げます。

大久保 長仁さん

長野市立博物館での見学後の職員から、ボランティア活動や、ボランティアの方との交流会をして「市民とともに作る博物館」を目指して活動をしている様子を直接聴けたことが参考になりました。また、楽しみながら学べる体制づくりに努力している様子が感じられ、色々と教えられる研修旅行でした。



写真右：松本市立考古博物館を見学、優れた文様の縄文土器、弘法山古墳から出土された副葬品を見ることが出来ました。

手塚 理恵さん

近距離での研修でしたが、長野県での充実した博物館見学ができてとてもよかったと思います。古代史から民俗学という多少ジャンル別ではあったとしても、近い県での山梨との共通される風土を学ぶことができました。

長野市立博物館ではボランティアの方々が率先されて活動され、活発なご意見等が聞くことができ自らの活動内容に対して意欲や反省を感じました。協力員としての自覚を見つめ直した様に思います。

松本市立考古博物館では縄文土器の文様の中にとっても個人的なものがあり、現代につながる三ッ綱のような装飾には縄で編んだように見える技に驚いてしまいました。天気にも恵まれ良き機会を与您いただき、野代学芸員、貝瀬さんに感謝しております。



昼食はそばや栗のおこわなど長野県のおいしいものをいただきました。

窪寺 康一さん

記録的な大雪のため延期された研修旅行も、良い天候に恵まれた。長野市立博物館では野代先生の先導で博物館に至るコンクリートの渡り廊下の両側に、五輪塔が地輪、水輪、火輪等各部材ごとにまとめられ、敷かれていた。

この地は古戦場と聞くと、かつては供養塔、墓標として各地に何かの目的で建てられた物だと思うが、時代とともに忘れ去られ、やがてはただの路傍の石となって、ここに運ばれたのだろう。今となっては、誰を葬った五輪塔なのかは知る由もなく、この地が古戦場であったが故、何か物寂しさを感じた。

館内ではボランティア活動状況について意見を聞き、活動活性化に苦慮している様子がかうかがえた。

志村 文也さん

今回は学芸員の皆さん事務局の方々のご配慮やご案内ご指導により楽しい研修旅行をすることができました。中でも山梨隣接地（長野、松本平）の縄文中期の土器形成（施文、形、厚さ、彩り等々）を見学し、山梨出土の同時期の縄文土器との相違点を学ぶことが出来、大変良かったと思っています。特に心に残ったのは松本市立考古博物館展示の縄文期の板状朱塗り土偶が時代は離れていますが、都留市中谷遺跡出土の縄文晩期の板状朱塗り土偶と類似していたのには驚きました。それらに関する報告書等がありましたら見てみたいと思います。

次の研修旅行には関東近県の考古館を案内していただきたいと願っています。色々とり難うございました。

飯田 敬さん

研修の出発は先日の大雪も過去の事と忘れてしまう程穏やかな日であった。長野市立博物館は川中島合戦最大の山場となった八幡原にある。60余名の協力員はそれぞれ得意の分野でガイドの資格を取り小学生にも学年単位でわかりやすく説明している。戸隠から移築された古民家は遠い昔を想い出させてくれた。展示物の解説は英訳されていてそれほど多くは来館されていないであろう外国人の為の当館の心遣いを感じた。終わりの交流会は熱い質疑応答で決められた時間が守られる訳もない。前回と違いソバ定食は格別であった。近くの胴合橋では山本勘助の悲哀が脳裏をよぎる。ツマミにイナゴの佃煮、干しシタケをお土産とする。長野市立考古博物館では出向の学芸員から当地は山梨の3分の1の積雪だったと逆に見舞いの言葉をもらう。展示品は見なれた物で私は時間をもて余し、早々にバスで待つ。帰路まだ土産が足りなく諏訪SAに寄りたい人をさておき5時無事に研修センターに着いた。山梨がだいぶ暖かいのに安堵した。いつものことですが役員さんありがとう。

◇ 平成26年度 研修 ◇

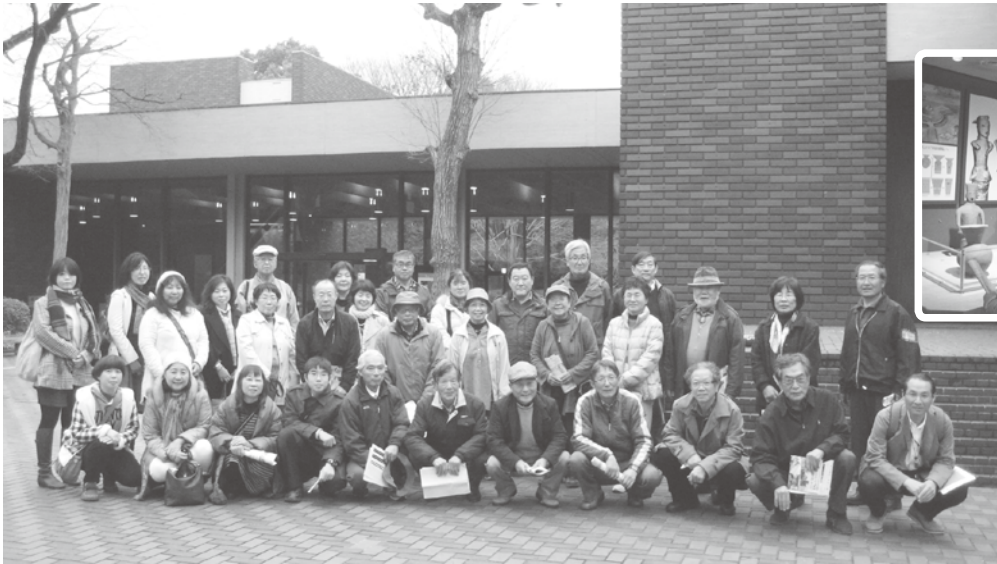
平成26年度 第1回 川越市立博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館

開催日 平成27年3月8日（日） 参加者 31名

かつて甲府城主でもあった柳沢吉保が城主を勤め、山梨とゆかりの深い土地、小江戸川越にある川越市立博物館、川越城下町を研修地としました。また平成27年度の特別展では資料をお借りし、活発なボランティア活動をされている埼玉県立歴史と民俗の博物館にも同日見学に行きました。川越ではボランティア活動について知ると共に博物館、川越城本丸御殿も見学し、城下町を散策しました。埼玉県立歴史と民俗の博物館では実際にボランティアをされる方のお話を聴き、体験学習の補助の様子を見学し、館内をご案内していただきました。両館とも豊富な資料があり、よりじっくり見学するには時間が足りませんでした。



川越市立博物館にてボランティア活動について担当の方からお話を聞きました。



写真右上・右下：川崎市立博物館を見学中。城下町を再現した展示室内から町の暮らしがよく分かります。
写真左：埼玉県立歴史と民俗の博物館にて集合写真を撮りました。もっと展示が見たいと思いつつ、急いで帰路に着きました。

平成26年度の研修記は協力会ブログに掲載します！
ブログもぜひご覧下さい。



平成26年度 第2回研修 研修地 岡銚子塚古墳、竜塚古墳、一の沢遺跡

開催日 平成27年3月17日（火） 参加者 18名

山梨県内の史跡を歩いて巡り学び直す目的で県内の研修を計画いたしました。八代ふるさと公園から出発し、岡銚子塚古墳、竜塚古墳からの眺めは壮観で八代一帯を広く治めた人物の力を感じさせます。一の沢遺跡は現在では桃畑となっていますが住居が多数発掘されています。出土したおおらかで優美な文様の土器は考古博物館で展示されています。暖かい春の日は、博物館から出て、歩いて史跡巡りするのもいいものですね。



写真右上：岡銚子塚古墳から竜塚古墳まで歩きます。天気も良く、盆地がよく見渡せました。
写真左下：竜塚古墳にて野代学芸員の解説を聞いています。
写真右下：一の沢遺跡を見学。現在は桃畑ですが広く住居跡が見つかっています。

◇事務局より◇ 平成25・26年度を振り返り本当にあっという間だったと感じます。平成27年度も勉強会や研修など充実した協力会活動ができるよう計画しております。博物館行事も盛りだくさんです。ぜひご参加下さい。事務局も新たな体制となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。(貝)